

速 報 第 4023 号 R 7 . 12 . 3 発 行 総 務 課 扱	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	7 年 ・ 4 定 一般質問 12 月 3 日	質 問 者	真下 紀子 議員 日本共産党 (旭川市)
質 疑 ・ 質 問		答 弁		担 当 課
三 ヒグマ対策について (四) 教育現場での対策について 児童生徒の安全対策のために、職員も保護者にも大きな負担がかかっています。子どもたちの安全確保および学校敷地内への侵入防止対策等にどう取り組むのか、教育長に伺います。		(教育長) 児童生徒の安全確保の取組についてであります。道内各地において、市街地や住宅地等の人の生活圏までヒグマが出没している状況を踏まえ、各学校では、登下校時や屋外での活動等において、ヒグマに遭遇する可能性があることを想定し、教職員の安全確保を図りながら、児童生徒の安全対策に万全を期すことが重要でございます。 このため、道教委では、危機管理の手引にヒグマが出没した際には、屋外での活動を中止するなど学校の対応例を追加いたしますとともに、敷地内の草刈りやゴミの管理の徹底など、人の生活圏への出没防止策を示した国のマニュアルを参考にしよう周知するなどいたしまして、各学校における児童生徒の安全確保に取り組んできたところでございます。 今後、各学校に対し、市町村関係部局や地元警察等と連携し、通学路や学校敷地内の見回り等に取り組むよう指導助言いたしますとともに、引き続き、環境生活部等と連携を図り、市町村教育委員会等に対する迅速な情報提供や各学校の安全対策の徹底に取り組んでまいります。		生徒指導・学校安全課
四 自殺対策等について (一) 若年層の自殺対策等について 国の自殺統計によりますと、小中高生の自殺が、全国で2024年に過去最多の529人にのぼり、特に10代の女性の自殺が顕著に増えています。知事及び教育長は、このことをどう受け止め、自殺にまで駆り立てる要因をどのように把握・分析し、対策をとっているのか。なぜ減少しないのか、見解を伺います。 また、道警察における自殺防止対策の取り組みについて、警察本部長に伺います。		(教育長) 児童生徒の自殺の状況等についてであります。国の調査によりますと、令和6年の児童生徒の自殺者数は過去最多となり、特に中・高校生の女子が年々増加するなど、極めて憂慮すべき状況と認識しております。 自殺の多くは、多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きているものと考えておりますが、特定された原因等のうち、男子は、学業不振や進路の悩み、女子は、精神疾患などの「健康問題」が上位を占めております。 道教委といたしましては、多感な時期にある子どもたちの不安や悩みに一層寄り添った支援が必要と考えており、心理、医療等を専門とする大学教授等で構成する自殺予防教育検討会を組織し、自殺予防教育プログラムやSOSの出し方に関する教育等の在り方について検討いたしますとともに、24時間受付の電話・メールに加えまして、SNSも活用した相談窓口を整備するなどいたしまして、児童生徒の命と心を守る取組を推進してまいります。		生徒指導・学校安全課
(二) 市販薬によるオーバードーズについて 自殺のリスクが高まる自傷行為や薬物乱用・依存に関する近年の研究で、違法薬物の使用から、麻薬成分のはいった市販薬によるオーバードーズへと変化し、深刻さが指摘をされております。道内においてもこうした変化に対応し、専門的な支援と対策をとっていく必要があると考えますが、知事及び教育長の見解を伺います。		(教育長) いわゆるオーバードーズについてであります。若年者の大麻等違法薬物の使用等が増加している一方、一般用医薬品の過量服薬、いわゆるオーバードーズによる健康被害が増加するなど、近年の子どもたちを取り巻く薬物乱用に関わる現状は憂慮すべき状況でございます。 道教委といたしましては、児童生徒がオーバードーズの危険性等を理解し適切に行動することができるよう、警察や医療機関などの関係機関と連携して取り組むことが重要であると考えており、養護教諭や教育相談担当教諭等を対象に、大学教授等の有識者を講師としたオーバードーズの実態や対応に関する講話、事例検討などの研修を行いますとともに、薬物乱用防止教室におきまして、警察職員等を外部講師として活用し、市販薬の過量服薬が心身の健康に悪影響があることなどにつきまして、学校や地域の実情に応じて取り扱うよう指導するな		生徒指導・学校安全課 (健康・体育課)

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
	どいたしまして、子どもたちの心と身体を守るための薬物乱用防止対策に取り組んでまいります。	